みずべ（仮名）
Mizube
Vol.4
特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会 会報
2003年（平成15年）6月24日発行

第１回平成14年度通常総会を行いました

さる、4月20日（日）13：30～より白河1丁目住宅集会室をお借りし、第１回平成14年度通常総会を行いました。

須永理事長の挨拶の後、審議が行われ、平成14年度の事業報告、決算報告、平成15年度の事業計画、予算が賛成により可決されました。また、新役員として、庄司邦昭さん、森本博行さん、吉田雅子さんについても賛成により可決されました。

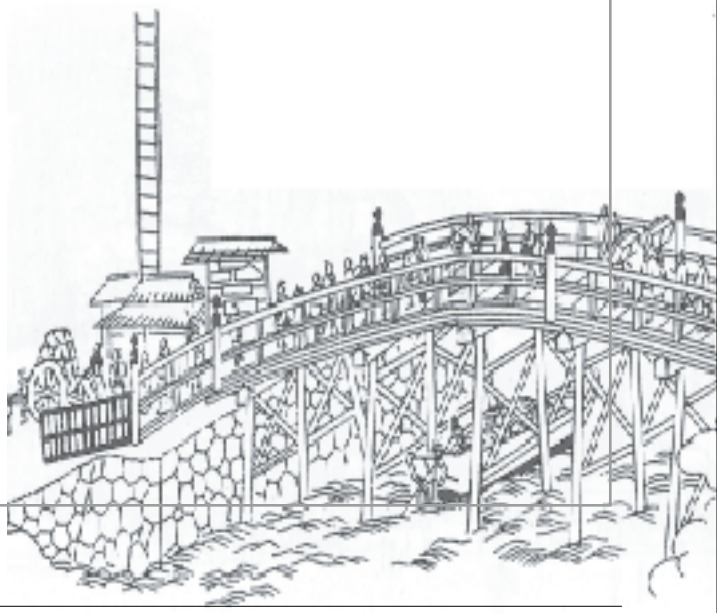
さらに、定款6条に賛助会員を追加する定款変更についても審議後、４分の３以上の賛成により可決されました。

事務局藤井氏より、役員変更、定款変更、毎年の東京都に提出の書類を東京都に提出する旨の連絡と、国税・地方税について減免の申請を行う連絡がありました。

平成14年度事業　第3回　水彩フェスティバル（2002年9月）の模様

＊平成15年度の活動予定＊

6月27日	「宮村河川塾」その２（森下文化センター）
7月20日	「鯉のぼり競争大会」（猿江公園）
7月23日から7月30日	「水都木場の面影」石井赤太郎の絵の展示（森下文化センター）
7月25日	「宮村河川塾」その３（森下文化センター）
7月26日	江戸開府400年記念シンポジウム「街づくりと水辺の再生」（三菱倉庫ビル）
7月27日	江戸開府400年記念事業「江戸東京の川再発見」日本橋川～神田川～小名木川の舟遊
8月12日から9月7日	「水彩都市江東の橋」（女性センター）
8月22日	「宮村河川塾」その４（森下文化センター）
8月31日	橋梁景観シンポジウム（女性センター）
9月6日・7日	「第4回水彩フェスティバル」
9月26日	「宮村河川塾」その5（森下文化センター）
10月中旬	「築地ウォーク」
10月24日	「宮村河川塾」その6（森下文化センター）
11月 2日	「舟での散策と築地見学」
11月28日	「宮村河川塾」その7（森下文化センター）
12月26日	「宮村河川塾」その8（森下文化センター）
3月下旬	「水辺ウォーク」



デザイン：エアー小林

「宮村河川塾」第1回開催

5月16日金曜日午後6時30分から、森下文化センターにおいて第一回「宮村河川塾」が開催された。地域性という捉え方で川の紹介をされた。最初は少し独特なのでと北海道から始められた。北海道の中でも今回はオホーツクの川を歴史的な観点から見て話された。沖積地がないと稲作ができない。稲作の出来る川、港の出来る川、農業や漁業などオホーツクに流れ込む川にもそれぞれ違いがある。川と人の暮らしは密接に結びついているとのこと。人の暮らしや歴史から見ると、自然の川の性格が分かりやすいそうである。

河川工学は歴史、地学、気象など幅広い分野をまたがった学問とおっしゃる宮村先生のお話しに、約40名の参加者は興味深く耳を傾けていた。これから日本全国を回るうちに、日本の地域独特の文化や歴史がより深く理解できるようになるだろうと、今後の期待に胸がふくらむ講義だった。

第1回東京湾NPO 市民ネットワークフォーラムに参加

2003年4月13日（日）13時から日本科学未来館において第1回東京湾NPO・市民ネットワークフォーラムが開催された。実行委員会には17団体が参加している。「江東区の水辺に親しむ会」の水辺には海も視野に入っていることから、ポスター・展示セッションとパネルディスカッションに参加した。

ポスター・展示セッションでは、これまでの「水彩フェスティバル」の記録をパネルにしたものと7月に行う江戸開府400年事業の企画のコピー、入会案内を並べた。他は海の活動が多く川の活動は異色だったのか、結構反響があった。江東区で活動をしている人や住民からも声をかけられた。

後半のパネルディスカッションでは各活動の事例報告だけでなく、行政の立場から判定できる書類の必要性や提供された情報への反響が欲しいという意見が出された。今後こうした交流で可能性を広げていくことも考えられる。

盛り上がるポスターセッション風景

第3回水辺ウォーク開催

投網の説明を受ける参加者

「江東区の水辺に親しむ会」では、会として3回目の水辺ウォーキング「水辺ウォークと投網・中川船番所資料館見学の会」を3月30日（日）に33人が参加して行いました。

これは江東区で中川船番所資料館（館内に中川番所を再現しているほか、江戸の水運・江戸から東京時代の小名木川水運等の資料展示、釣具展示など）が大島9丁目の旧中川岸に完成したことに協賛して会の行事として行ったもの。

江東区女性センター前から横十間川沿い→仙台掘川沿い→荒川岸に至り、小松川船着場で磯貝房吉さんら投網友の会の人達による投網の実演を見学、さらに工事中の荒川ロックゲートを見て、次に旧中川沿いの中川船番所資料館までのルートを歩きました。資料館入館は自由に見てもらい、午後には投網体験希望者に資料館前で投網の指導もしてもらうという盛り沢山の催しでした。

当日は森本会員作成のガイド図と順路説明、村上理事がコピーした川に関する資料4点江東区観光イラストマップが配布されたほか、希望者に砂町銀座紹介資料などが提供されました。

INFOMATION

■名前募集

ＮＰＯ申請後初めての会報発行です。会の活動情報を早くお知らせしたいと考えます。ご意見や原稿もどしどしお送りください。イベントなどにご協力いただける方もお知らせください。会員からの会報の愛称も募集します。締め切り（7月30日）

発行日／平成15年6月24日
発　行／特定非営利活動法人 江東区水辺に親しむ会
〒135-0023　東京都江東区平野 2-8-10-608
連絡先／Tel . 03-3201-3901　Fax. 03-3201-3890

みずべ Mizube Vol.5

特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会 会報　2003年（平成15年）8月24日発行

「江戸・東京の川再発見」に参加して

当日は梅雨時にもかかわらず快晴。解説をしてくれた自称“神田川晴れ男”の「神田川船の会」の林福松さんの舌術も軽やかに、船は飯田橋を出航しました。東京の川については、ほとんど素人なので、遊覧した各川の印象を少し…

「神田川」は何と云っても「けなげな川」というのを実感。東京中央の雨水の処理をあの細い体で一身に引き受けてるなんて、ほんとに「けなげ」。各所に作られた枝川や、地下の巨大な溜め池のことなどを、林さんから解説をいただき、我々の知らない所で、人も川も努力しているんだなと実感しました。でも、それだけに残念なのは川の汚れ。だいぶきれいになったということだけど、これだけ頑張っている川に対して、ちょっとひどい仕打ち。一緒に乗船した友人の女性は、「今からでもゴミを拾いたくなる」と言っていたが、そんな気分にさせられるのも、川面という低い視線から、東京を覗かせてもらった効用かな。

「隅田川」はやっぱり圧巻。東京に何年も住んでいるが、実際に「隅田川」を船で走るのは初めて。小型漁船だったので、川面を渡る風を肌で実感でき、本当に爽快な気分でした。このまま東京湾まで疾走したいという欲望もふつふつと…。でもそれは今度の機会に。

「小名木川」は唯一、江戸時代の川辺の雰囲気をかすかに感じられる川。比較的ゆったりしていて、錦絵などで見た江戸の水路の景観を、かなり無理矢理に頭の中で「現実の風景」に置き換えると、仮想体験できそう。

当日のメインイベントだった「小名木川」の水門は、目的が不明だった為ミステリアスな体験。実際両水門が閉ざされた時はどうなることかと…。先頭の船に乗っていた為、水門が開いてその

下を通過する時の水しぶきは「スプラッシュマウンテン」みたいでちょっと興奮。これが水門訪問の目的？

「日本橋川」は優美。江戸橋、常磐橋、そして日本橋。高速道路で蓋をされた地上からではほとんど分からないけれど、橋のデザインのほんとにモダンなこと。特に日本橋の獅子の紋章などは地上からでは絶対に観られない景観。改めて東京の景観は経済成長で、人々の影に追いやられてしまったんだなと実感。

そんな訳で、貴重な体験をさせてもらい関係者の方のご苦労に本当に感謝。私の周辺の印象からしても、体験してみたい人はかなり多いはず。回を重ねる有効性は絶対にあるとおもいます。

最後に今回東京の川を見せてもらった返礼にデザイナーとしての各川の改造案をひとつ。

「神田川」は外観の清楚さを改善しつつ、東京の近代的な治水を実感させる「未来」河川に。「小名木川」はもうそっくり江戸そのものに作り直し、渡し場も多く作り、「夕涼みにちょっくら隅田川まで」なんて気楽に船を乗り出せる「粋」な河川に。そして「日本橋川」は明治のモダニズムを完全に再現。もちろん高速はとっぱらって、橋を中心に川辺を大改造。着飾ったカップルが川岸を歩く姿が絵になるような「お洒落」な河川に。なんてどうでしょうね。　（小林茂男・グラフィック・デザイナー）

水辺への理解を深める「第4回 水彩フェスティバル」開催

水を通じた交流をはかり、江東区が水彩都市であることをアピールするために、
水彩フェスティバルと展示、シンポジウムを開催します。開催日程は下記の通りです。

1. 日時：平成15年　9月 6日(土)　9月 7日(日)

2. 水彩フェスティバルの内容

★9月6日（土）……スタンプラリー方式

① 降雨体験車…… 国土交通省荒川河川事務所
② 閘門の開閉見学…… 東京都江東治水事務所
③ 和舟乗船体験…… 江東区和舟友の会
④ 模擬店…… 扇橋3丁目町会
⑤ 和太鼓…… 第4砂町子供会
⑥ リサイクルマーケット… 環境整備推進委員会
⑦ 手旗信号教室…… 東京商船大学
⑧ 投網…… 細川流投網の会
⑨ 風船アート…… 江東区の水辺に親しむ会
⑩ 工作教室…… みどりネットKOTO

★9月 7日（日）

⑪ 歴史ウォーク…… 江東区スポーツ大学OB会
⑫ カッターレース…… 江少連北部連合会
⑬ ボートレース…… 江少連北部連合会

3. 関連行事

●ミニシンポジウム「江東区の橋を中心とした景観づくりにむけて」
　平成15年 8 月31日（日）１６時～１8時に女性センターで開催
●「江東区の橋とその周辺の景観形成」パネル展示
　8月12日（火）から 9 月7日（日）女性センターで開催
●「最後の川並　石井赤太郎が描いた明治の江東風景」の展示
　9 月 3 日（水）から 9 月14日（日）森下文化センターで開催

小名木川の水質調査を行いました

さる、6月8日（日）午前10時より荒川クリーンエイド・フオ―ラム主催の身近な川の一斉調査（荒川、芝川、新河岸川、石神井川、隅田川、旧中川、小名木川、横十間川、綾瀬川、中川、江戸川、旧江戸川、新川　等）に参加し、私達は、小名木川の高橋より水質調査を実施し体験しました。

●調査の方法

高橋の中央部からバケツで川の水を取り、水の色、におい、薬品による化学的調査を行いました。

●化学的調査の項目・内容（参考資料　荒川クリーンエイド・フオ―ラム資料）

ｐＨ（水素イオン濃度）：水の酸性度を示し、７が中性、７より小さいと酸性、大きいとアルカリ性です。普通の河川水はｐＨ７前後、少し汚れた川でｐＨ８です。

ＣＯＤ（化学的酸素要求量）：水の汚れを示し、水の中に溶けている有機物の量を示す指標で数値が高いほど水が汚れています

ＮＨ４＋－Ｎ（アンモニア態窒素）、**ＮＯ2＋－Ｎ**（亜硝酸性窒素）

ＮＯ3－Ｎ（硝酸性窒素）：窒素の濃度を示す指標で、ＮＨ４＋－Ｎ（アンモニア態窒素）の値が大きいと酸欠で汚れた川で、ＮＯ3－Ｎ（硝酸性窒素）の値が大きい場合は、溶存酸素はあるが汚れた川です

●調査結果

場　所：小名木川　高橋

気　温：26.0℃　　水　温：23.5℃　　水の色：無色　　におい：なし

●調査項目／調査河川 主な河川との比較（2002年の調査結果）

	小名木川（高橋）	荒川（葛西橋）	旧中川（ふれあい橋）	横十間川（岩井橋）	隅田川（水神橋）	江戸川（市川橋）
ｐＨ（水素イオン濃度）	7.5	8.5	8.0	8.0	7.0	8.5
ＣＯＤ（化学的酸素要求量）	10 mg/ l	5 mg/ l	20 mg/ l	3 mg/ l	20 mg/ l	4mg/ l
ＮＨ４＋－Ｎ（アンモニア態窒素）	1.6 mg/ l	0.8 mg/ l	1.6 mg/ l	4.0 mg/ l	4.0 mg/ l	0.12 mg/ l
ＮＯ2＋－Ｎ（亜硝酸性窒素）	0.15 mg/ l	0.15 mg/ l	0.3 mg/ l	0.3 mg/ l	0.3 mg/ l	0.025 mg/ l
ＮＯ3－Ｎ（硝酸性窒素）	4.6 mg/ l	2.3 mg/ l	10 mg/ l	4.6 mg/ l	4.6 mg/ l	0.7 mg/ l

＜感想＞　小名木川の河川水は、無色でにおいもありませんが、他の河川と比較しＣＯＤがやや高いと感じました。河川調査は、とても簡単にできることがわかり、次回は会員の皆様にも呼びかけ、近隣のこども達にも体験させてあげたいと思いました。（藤井）

「最後の川並　石井赤太郎が描いた江東の風景」展示開催

7月23日から30日の8日間、森下文化センターで石井赤太郎（故人）の絵の展示を行った。通称“太郎”と呼ばれた彼は川並の3代目で、その絵からは明治の風景を書き残したいという強い思いが伝わってくる。

貴重な絵なので現物は展示せず、区の広報広聴課の協力により写真を撮影しての展示とした。そして絵にある場所を示す地図も展示、昔を知る人も知らない人も興味深くのぞき込んでいた。この絵の持ち主林栄次郎氏も「もう江東区に住んでいないからあまり行かない」とおっしゃっていたにもかかわらずたびたび見に来てくださった。おかげで“太郎”の思い出だけでなく「櫂は7年、竿3年、櫓は三月」「日本橋川は水の集まる一番大切なドブ」「船にはあばら骨の役割のまつらがあり、木の曲がった部分を使う」など、いろいろ面白い話も聞けた。会場に置いた雑記帳には、亡くなった川並であった父親のことを書いたもの、場所の位置が違うというものなどきわめて具体的に書かれていた。後半は9月３日から14日まで行う。昔江東区がどんなに素晴らしい水の都であったかが、記憶をたよりに描かれたこの絵から分かる。是非多くの方に見てもらいたいと考えている。

全国の川めぐり、9月は青森宮村河川塾

7月25日「宮村河川塾第3回」が開催された。これまでオホォーツク海側、太平洋側と続き、日本海側が北海道編の最終回。北海道は新しく切り開かれた所であり、全く新しい文化が作られたところである。そして日本海を中心に見ると、地中海と同じで港が重要な拠点となる。港が作られた事情や川との関係、産業などについてのなぞ解きは、なるほどと思わせるものばかりだった。

先生の話の中には、江東区との比較がところどころに出てくる。街の勾配についての話もそのひとつ。普段意識していないが江東区は10000分の１、ところが札幌は扇状地の一番上部に作られた街で200分の１の勾配だそうである。このような急勾配のところにある県庁所在地はめずらしいが、それも事情があってのこと。そしてそこに川が深くかかわっていることの面白さを感じた。

次に開催した8月22日の沖縄は次号で紹介する。9月は26日に青森の川をたずねる。どんな話が飛び出すのか、楽しみである。

編集後記

会報の名称は、理事会で協議し「みずべ」と決まりました。したがって（仮称）は取りました。前号の会報は3号となっていましたが、4号の間違いでしたので直してください。水辺５号も掲載事項が盛りだくさんです。江戸開府400年記念イベントのシンポジウムの記事は、次号に掲載いたします。

発行日／平成15年8月24日
発　行／特定非営利活動法人 江東区水辺に親しむ会
〒135-0023　東京都江東区平野 2-8-10-608
連絡先／Tel . 03-3201-3901　Fax. 03-3201-3890

みずべ Mizube Vol.6

特定非営利活動法人　江東区の水辺に親しむ会 **会報**　　2003年（平成15年）10月18日発行

「9月6日、7日の両日「第4回水彩フェスティバル」実施

ー主催水彩都市アピール実行委員会　於クローバー橋ほかー

今年の不順な天候を吹き飛ばすような、青空。4回目を迎えた「水彩フェスティバル」。

第四砂町子供会の勇壮な太鼓の音色のもと、10時に開会。室橋昭区長の挨拶は江戸開府400年にちなみ、江東区の歴史に蘊蓄を。降雨体験車では大雨の実体験より、おそらく数千万円を費やした「車両」の立派さ（国土交通省の予算・人員のすごさか）に驚き、扇橋３丁目町会の模擬店で見せた「ヤングママパワー」、パァーとひろがる細川流投網、横十間川親水公園に浮かんだ友の会の「和船」、風船アートや「みどりネットＫＯＴＯ」の工作教室に心をなごませた親子。熱心な環境整備推進委員会によるリサイクル店。

７日にはスポーツ大学ＯＢ会主催の水辺ウォーク（清澄庭園のガイドさんありがとうございました）。その中で、東京商船大学の学生さんが大活躍。いまや船員さんでもあまり知らない手旗信号の実演。「かもめ」による扇橋閘門体験。お子さんも大喜びの「カッター」。揃いのＴシャツの袖口に「越中島魂」がひかる。10月から「東京海洋大学」となってもスマートさとかっこよさは変わらないでしょう。

参加者は２日間で2500人にも及び大成功。個人的には、なんと自転車ごと「かもめ」でクローバー橋から越中島までの船旅と、美女２人とのモンジャで幕を閉じた楽しい楽しい２日間でした。来年もシナリオにもない、ハプニングが起こることを期待して。

（森本博行）

和船乗船体験

賑わう模擬店

告知　「水から陸から眺める築地の姿」船旅体験

11月２日（日）　午前９時　両国　水辺ライン船着場集合

両国→聖路加タワー→築地市場（築地市場まつりを見学）→晴海、月島、豊洲三半島めぐり→葛西臨海水族園13時着

参加費3千円程度　先着70名

詳細、申し込みは森本　090-4826-2777または kiyomori@muh.biglobe.ne.jpまで　10月28日締め切り

NEWS

「全国都市再生モデル調査」の提案に募集、選定されました

都市再生本部（本部長：内閣総理大臣）において決定された「全国都市再生のための緊急措置～稚内から石垣まで～」（平成14年４月８日）の一環として、「地域が自ら考え自ら行動する」都市再生活動を国が支援することになり、「全国都市再生モデル調査」として公募が行われました。

「江東区の水辺に親しむ会」でも「防災対策を考慮した水と緑のネットワーク再生事業」として応募し、都市再生本部事務局において選定されました。会がこれまで行ってきた勉強会や催し、提案などを生かし、よりよい水辺を作るのための一助にしたいと考えております。会員の皆様のご協力を、よろしくお願いします。

河岸めぐりのユニーク・ウォーク

10月4日(土)に「江戸開府400年記念“市場の歴史を辿るウォーキング”というユニークな催しを、江東区の水辺に親しむ会主催、東京都中央卸売市場管理部協力という実行委員会形式で行った。

とはいうものの現実的には当会理事である森本博行さん(清澄在住)が勤務先の管理部をまき込んでくれて実現できた企画。京橋大根河岸やら築地の河岸など、江戸から近年までの生活物資が船を使って運ばれ、営まれていたことなどが、まったく気づかずにいた石碑や説明で知ることができ、“水辺”と生活の結びつきをウォーキングしながら学ぶことができたあたりは会の行事としての意味も大いにあった。

コースも万世橋から日本橋、銀座通り、汐留、築地市場と約50名が2班に分かれ、華やかなところや、小ぢんまりと残っている日本橋魚河岸発祥の地などありで、何度もテストをした研究結果が生かされていた。

日本橋で河岸の説明に聞き入る参加者たち

募集も都の広報紙を利用できたので400名を超える応募者があり、抽選参加者は下町の人より世田谷とか調布など遠方の人も多く、思わぬ形で会の広域PRの機会にもなった。事務やら世話やらもすっかりお任せした形で、漁夫の利みたいな格好になった。

利といえば、詳しいウォーキング資料や築地市場商業協同組合が格安提供のお土産と市場のしおり、魚がし飲食街の紹介マップなど通常では気づかぬ資料も手に入って拍手のうちに行事を終えることができた。 (村上幸一)

川から理解、地域の特性 沖縄の川と青森の川

青森県の川が紹介された第5回宮村河川塾

毎月第4週目の金曜日に開催する河川塾、8月と9月は沖縄から青森と、南と北の話になった。会を重ねるごとにきれいな地図やパンフレットなどの資料ガ増え、内容をより具体的に理解できるようになった。

沖縄の川とのかかわりは水資源開発にあるという。人口が集中している南は土地の構造が雨の溜まるようになっていないそうで、北を開発して北から水を運ばなければならないという事情があるとのこと。首里城は地層の中に雨水がたまる、湧き水のあるところに作られたというのも面白かった。

青森編でも日本海側と太平洋岸とで全く地域性が違うことを河川から見た。日本海側の岩木川は雪が多く、太平洋側の馬渕川は雨が少なく山せが吹くと冷害になりやすい地域である。南部藩は沖積地で水が得にくい十和田周辺の三本木原台地を開発したいと、稲生川を開削した。その工事を新渡戸稲造の祖父、父、兄とが三代にわたって行ったとのこと。トンネルには生々しい堀痕が残っているそうで、当時の技術を是非見てみたいと思った。

次回は鹿児島である。また川を通して一つの地域が身近になる。

(須永俶子)

「よみがえれ中央区の川たち」に参加して

トリトンスクエアにて開催された「よみがえれ中央区の川たち」に参加しました。中央区の市民団体の方々が中心となって、Eボートや小さな船を川に出し、一般の方が水辺に親しめるイベントです。過去にもう何回も開催しており、私たちが行っている「水彩フェスティバル」と同じようなイメージです。

都合で船には乗れませんでしたが、再開発の新しいまちと古いまちなみが残る中央区の川からの景観は江東のものとは違う良さがあるように感じました。

来年も参加したいと思いました。 (藤井達生)

シンポジウム ー江東区の橋を中心とした景観づくりにむけてー を開催

江東区内にある震災後架橋された42の橋と、その周辺の緑や景観を調査した結果が、水彩フェスティバルの一環として女性センターで展示されました。調査をしたのは工学院大学建築学科の初田研究室と日本大学生物資源学部の島田研究室の皆さん。江東区の要請に応えて、初田、島田の両教授の指導を受けながら、一つひとつに橋について、建築と緑・景観という視点で実地調査をしたものです。日頃、なにげなく渡っている橋が、学生たちの新鮮な目で分析することで、地域の景観にも大きな役割を果たしていることが分かりました。

31日には調査結果を発表するシンポジウムも開催され、江東区の水辺に親しむ会から須永理事長、江東区道路課長(前水と緑の課長)の粒来さん、みどりネットKoto代表小笠原光男さんも加わって、水彩都市江東の象徴ともいえる橋について、住民、大学、行政がそれぞれの視点から語り合いました。

学校も専攻も違う二つの大学の学生が、こうした調査研究を一緒に行うのは極めて珍しいことだといいます。今後の発展が期待されます。 (飯田太郎)

発行日／平成15年10月18日
発　行／特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会
〒135-0023　東京都江東区平野 2-8-10-608
連絡先／Tel. 03-3201-3901　Fax. 03-3201-3890

みずべ Mizube Vol. 7

特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会 会報 2003年（平成15年）11月20日発行

水辺から市場と水辺開発を見る

水辺からの見晴らしを堪能する参加者 （photo 斎藤富三）

敷地内水神社から賑わう市場を見る （photo 斎藤富三）

上天気に恵まれた11月2日に当会主催の“市場と船のイベント”「水辺から市場の姿を見てみよう」が行われました。大型水上バスを借り切って、当日の参加者約80名 の催し。目玉は当日、開かれている「築地市場まつり」も見て、買物も楽しめたこと、両国から葛西まで特別ルートで変化の多い水からの見学や景色見ができたことで す。お土産は保冷袋入り上海ガニと明太子、最後は希望者のみが葛西の臨海水族園を 割引き見学しました。

両国橋から始まって隅田川を下り、聖路加ガーデン脇の船着場から築地市場まで歩く。市場内は特設屋台多数と各種イベントで大賑わいです。翌日の新聞には13万人の人出があったと出ていました。ともかく人が多すぎて、見るのも買うのもやっとこさっとこと いう状態でした。

水辺見学は結構のスピードなので、あれがなに、ここがどこと確認しながら、改めて都市への集中ぶりや水辺の変様を認識したという感じでした。天候が良かったので、デッキからの眺め具合も格別でした。

今回も森本理事が主になって行われ、お世話になりました。

（村上幸一）

告知 「宮村河川塾」来年のスケジュール決定！

12月に宮崎を訪ねると、今年で8回目となる河川塾。河川だけでなく歴史、文化、風景、地場産業、食べ物など毎回趣向を凝らしたお話しで、宮村先生のお話しは涸れることのない水源のようです。全国から取り寄せられる資料も魅力。初めての方も途中からでも是非ご参加ください。

〈来年のスケジュール〉1月23日・2月27日・3月26日

（今年のスケジュール・12月26日）

● 開催場所：森下文化センター（TEL5600-8666）

●開催時間：6時30分～8時00分 ● 受講料：1500円（資料代含）

江東区民まつり アンケート感想

「こんなに質問項目が多くて、答えてもらえるのかな」と、正直不安に思っていました。この調査は1件につき15分以上もかかり、被験者にやや負担を強いるものだっ たからです。しかし、いざ始まってしまうと私達が呼びかける以前に展示した大きな地図に人が集まり、江東区について熱く語って下さって、安心しました。家族で地図を見ながら避難経路や集合場所を相談している姿もあり、調査という立場ながら防災意識啓発のお役に立てたようで嬉しく感じました。また、江東区民でない上に勉強不足で、被験者の方からお叱りを受けることもありました。お恥ずかしい限りです…。

これまで私は来訪者的視点が強かったのですが、橋が多くて生活が大変な面があるという意見から生活者的な視点で見ることも学びました。このアンケートを通じて、私達はもとより被験者の皆様にも新しい江東区を発見してもらいたいと思います。

最後に、このような機会を与えて下さった「江東区の水辺に親しむ会」の須永さんを始め、協力してくださった皆様、ありがとうございました。

（東京商船大学商船学部流通情報工学課程4年　圷 奈保子）

子どもも楽しめるフェスタに

10月26日（日）の夕方、第4回水彩フェスティバルに参加した実行団体の集まりがありました。先に行われたフェスティバルの反省や、次年度に向けた意気込みが話されました。初めて参加された小松橋地区連合町会の小泉氏をはじめとする多くの人から は、「もっと子どもたちが参加しやすいフェスティバルにすべきだ」との意見が出され、将来を担う子どもたちこそ地域の主役だ、という意識の強さを感じさせられまし た。

反省点として挙げられたのは、宣伝告知が開催の直前になってしまったことや、参加　団体同士の打合せの回数が少なかったことなどです。今後は十分準備を整えられるように、2ヶ月に1度のペースで会合を開くこととなりました。

地域の人たちが集まって、楽しいイベントを開きながら、現在と将来の地域のあり方を考えるきっかけとして、市民主導型の水彩フェスティバルがあるんだと思いました。　（奈良朋彦）

隅田川ウォークラリーに参加して

10月12日、隅田川ウォークラリーに参加しました。私は隅田川流域連絡会に所属しており、このウォークラリーは同じ委員の須永さんから教えていただきました。

当日は万年橋のスタッフを行いました。早朝に雨が降っていたにも関わらず、去年よりも多い約150名の方が参加されました。昼ごろには9月上旬の暑さになり、参加者に　とっては大変だったようです。参加者は地元の方以上に遠方からいらした方が多く、「隅田川の見方が変わった」といわれる方もいました。いろいろな人に隅田川を知ってもらうことができるこのウォークラリーは大成功だと思います。また私にとっては、同じ万年橋のスタッフの方々から隅田川の歴史や風情の変化など、実際に住んでいてもわからない非常に多くのことを教えて頂きました。来年もより多くの人に参加してもらえるウォークラリーになればいいなと思います。

（隅田川流域連絡会委員　高橋佑司）

明治丸シンポジウムに参加しました

猪牙船について語る和船の会の斎藤富三さん

11月1日（土）、東京海洋大学（東京商船大学）海洋工学部主催で、第2回明治丸シンポジウムが開催されました。構内に保存されている明治丸は、今年で建造129年を迎えます。この明治丸にちなんでイギリスの建造地について、文化財の保存に関する提言、明治丸内に飾られた模型の帆船の歴史、猪牙船の建造について、田船の発展系統図等幅広い話を聞くことができました。知らない土地から船のルーツまで、どの話しも面白く興味がつきません。あっという間の3時間でした。船は大海原に漕ぎ出すような、新しい挑戦をイメージさせる魅力を感じさせます。隅田川河口のシンボル、明治丸のマストよ永遠にと思いました。　（須永俶子）

発行日／平成15年11月20日
発　行／特定非営利活動法人 江東区水辺に親しむ会
〒135-0023　東京都江東区平野 2-8-10-608
連絡先／Tel . 03-3201-3901　Fax. 03-3201-3890

宮村河川塾での驚き

１０月鹿児島県、１１月秋田県の２回、宮村河川塾に参加させていただきました。最初の驚きは、受付の際に配られる資料の多さです。地域の地図をはじめ、河川事業や水害、ダム等々に関するもので、持って帰るのが大変だなあと贅沢な悩みを感じてしまうほどです。

資料の内容は少々お堅いのですが、宮村先生からは近世以来の流域における歴史や文化、関連する海外の事例を取り混ぜながら、それぞれの河川の特徴を端的に、また分かりやすく説明いただけるので、それらの河川に対しての好奇心が芽生えます。しかも、メモをご覧にならずに、1時間半のレクチャーが途切れることもないその様子に、またもや驚いてしまいます。

第３の驚きは、この河川塾が日本全国の一級河川すべてを網羅するといった壮大な計画を目標にしていることです。ですから、参加しているうちに全国の一級河川通になれるという訳で、今後の国内旅行にも楽しみが増えることになりそうです。

これからも、宮村河川塾での新たな驚きと知らない河川との出合いを求めて参加していきたいと考えています。

（難波匡甫）

「宮村河川塾」2004年春のスケジュール

★初めての方でも是非ご参加ください

1月23日・2月27日・3月26日

- 開催場所：森下文化センター（TEL5600－8666）
- 開催時間：6時30分～8時00分
- 受講料：1500円（資料代含）

調査・ワークショップの業務にご協力いただける方募集！

●既に会報6号でもご紹介いたしましたが、当会が都市再生本部へ応募した事業「全国都市再生モデル事業」が、同本部より選定されてから3ヶ月が経ちました。テーマは、防災対策を考慮した水と緑のネットワーク再生事業です。

本事業は1月から3月の間に行なわれ、右のように進めたいと思っております。つきましては、調査やワークショップの業務にご協力いただける方を募集いたします。

●江東区の水辺と緑、舟運の可能性などを調査できる絶好の機会に、皆様のお知恵やご経験をお借りしたく、多数の方からのご応募をお待ちしております。

(1) 防災を考慮した水と緑のネットワーク地図の作成のための基礎的調査
- ■ 船舶も用いたフィールドワーク（実測調査、現況調査等）の実施
- ■ 水と緑のネットワーク化に向けた整備すべき内容に関する検討

(2) 防災に向けたまちづくりに関する意識調査
- ■ 地域住民へのアンケート調査の実施
- ■ 関係主体へのヒアリング調査の実施

(3) 防災ワークショップの実施
- ■ 防災活動シミュレーションの実施
- ■ 防災に向けた活動の協議会の実施

(4) 最終とりまとめの作成
- ■ 防災を考慮した水と緑のネットワーク地図の作成
- ■ 地域の各主体が協働で行なう水と緑のネットワークに関する提案
- ■ 報告書の作成

お問合せは

担当者　奈良朋彦・須永俶子
連絡先　メールアドレス：talo@ss.iij4u.or.jp
電話：03-3201-3901　FAX：03-3201-3890

発行日／平成15年12月20日
発　行／特定非営利活動法人 **江東区の水辺に親しむ会**
〒135-0023　東京都江東区平野 2-8-10-608
連絡先／Tel.03-3201-3901　Fax.03-3201-3890

みずべ Mizube　Vol.8
特定非営利活動法人　江東区の水辺に親しむ会 会報　2003年（平成15年）12月20日発行

フェリー埠頭

ワークショップ「東京湾から見た東京の風景」に参加して

前日の晴天とは打って変わって、どんよりとした灰色の空模様下、東京海洋大学の練習船「やよい」19トンに30数名の参加者、関係者を乗せ、当大学の越中島キャンパスを10時、勢いよく始発した。相生橋を通過し、隅田川に入り、河口に向かってスピードアップした事もあり、強い海風を受け、寒い視察となった。築地付近から後を振り返ると、高低不揃のビル群が無機的な冷たさの裏側を見せていた。

しかし竹芝、日の出、芝浦埠頭、レインボーブリッジ、また左岸のお台場海浜を通過する時には、浜離宮の緑、背後に東京タワー、高層ビル群は、自然と人工物は、よく調和して、ここからの眺めは、東京の表玄関らしく、予想以上に良かった。

品川、大井、青海コンテナ埠頭では、数万トンの外国のコンテナ船、数10mの大型クレーンを見るにつけ、ダイナミックなスケールと活力が感じられ、また、浚渫作業中の広大な廃棄物処理埋立地などを見ると、首都圏4,000万人を養っている東京港のすごさを実感した。

12時前に越中島キャンパスに戻り、1時半からの自由テーマによるセッションでは、「港湾行政」、「運河の活性化」、「美しい街づくり」、「水彩都市ベルリーン滞在記」、そして我が奈良さんによる「防災対策を考慮した水と緑のネットワーク」と多彩なプレゼンがあり、いろいろな立場、切り口からの話題は興味深く、今後の活動の参考になったと思う。

特に我が会の地に足が着いた活動が注目され、質問を受けたのが印象的で、専門家が気付かない点を、市民の目線での、我が会の活動に期待が集まった。5時過ぎ解散、街の明かりが温かだった。

（田中昭重）

コンテナ埠頭

平成15年度・第４回
江東区水彩フェスティバル

アンケート調査結果について

島田正文、杉田裕美（日本大学）

平成15年９月６～７日の２日間、クローバー橋周辺において開催された「第４回江東区水彩フェスティバル」時に、参加者を対象として実施したアンケート調査結果（回答者数216名、但し、設問によって回答者数は異なる）の概要をご報告致します。なお、調査にご協力戴いた方々には、本紙面をもって、お御礼申し上げます。

１．アンケート回答者と参加形態（回答数：216）

アンケートは直接聞き取り調査としましたが、回答者の内訳は女性が62%でその内の約50%が主婦でした。また、年代別に見ると30歳代、10歳代、40歳代の順に割合が高く、全体の約60%を占めています。職業別には、主婦と小学生、会社員が多く、親子で参加の割合が全体の約50%を占めました。このことから親子、特に「お母さんと子供」で参加したケースが多いことが分かります。また、友人との参加形態も約20%を占めました。

２．参加回数（回答数：209）

水彩フェスティバルに「初めて来た」方が70%と非常に多かったです。昨年行った同調査では、回答者の約90％が水彩フェスティバルに「また参加したい」と答えていましたが、リピーターは30%（前回参加11%）と少なく、今後、毎年このイベントを楽しみにしてもらえるような企画の検討が必要かもしれません。

３．参加者の居住地（回答数：209）

回答者の93%が江東区にお住まいの方でした。今年で４回目となった水彩フェスティバルは地域密着型の催しとして、定着してきた傾向が伺えます。

４．運河や河川について

回答者に、まず、運河や河川に関する意識を尋ねてみました。

（１）運河や河川への関心（回答数：204）

江東区の運河や河川についての関心は高く、86%の方が関心を持っていることが分かりました。江東区には隅田川や荒川の他、多くの運河、そして水辺がありますが、このような意識を大切にし、今後とも運河や河川を中心とした水辺を活かしたまちづくりに取り組んでいく必要があると言えます。

和船乗船体験

カッター体験

（２）運河、河川、水辺の利用（回答数：198）

普段運河や水辺を利用している人の割合は90%を超える結果となりました。その理由として、河川沿いの遊歩道、親水公園、橋詰め広場など、水辺を利用できる空間が各所に整備されているという点が上げられています。水辺のある暮らしが区民に定着しているように思います。

主な利用は、17項目にわたりましたが、子供から高齢者まであらゆる人が簡単に行える「散歩・ジョギング」が40%を超えました。「親水公園で遊ぶ」が10歳代以下と、その親世代となる30歳代に多い回答でした。その他にも「水面や周囲の景観を眺める」、「買い物、通勤、通学時の通り道」のような項目の回答数が多く、日常生活の一部として水辺を利用している姿が浮かびあがっていました。

一方「利用していない」と答えた方の理由としては、「忙しい」「水辺に来ない」といった意見がありました。

５．水彩フェスティバルについて

今回の水彩フェスティバルおよび今後について尋ねてみました。

（１）開催イベント（回答数：147）

雨で屋外のイベントが極端に少なかった昨年と違い、天候に恵まれた今年は14ものイベントがありました。中でも一番の人気は回答者の約30%が参加した「足こぎボートレース」で、どの年代にも人気のあるイベントでした。同じく乗り物イベントである「カッター乗船」、「和船乗船体験」も約20%の方が参加したイベントとなりました。

面白かったイベント（回答数：110）についても上記と同様「足こぎボートレース」、「カッター乗船」、「和船乗船体験」が20%以上を示し、その満足度が大変高いという結果となりました。その他では、飲食物模擬店、降雨体験等も上位を占めました。

今回参加はできなかったが、興味のあったイベント（回答数：145）としては、約20%の方による「和船乗船体験」、「水辺コンサート」、「工作教室」、「リサイクル店」の他、殆どのイベントに興味がもたれていました。

（２）今後の開催希望イベント（回答数：173）

開催希望イベントについては、約20%の方による「水上バス・和船の増便」が第１位を占め、今回、特に親子での参加者が多かった関係もあり、「子どもと楽しめるもの」という意見が２番目に続きました。さらに、水彩フェスティバルが水辺での催しということもあり、「花火」、「水辺での遊び」、「模擬店等の増加」等を希望する声もありました。今後、このような希望についても検討していく必要があると思います。

（３）次回への参加意識（回答数：196）

次回も水彩フェスティバルに参加したいという方は90%を超え、非常に高い数値を示しました。この数字からも今回の水彩フェスティバル参加者の満足度は、大変高かったのではと推察されます。

また、次回の水彩フェスティバル開催に際し、21人の方がボランティア活動での協力を表明して下さり、非常に心強い限りです。

最後に、江東区の河川、運河、水辺等に対する理解と愛着心の醸成等を目指す「江東区の水辺に親しむ会」としては、江東区水彩フェスティバル実行委員会や参加団体との調整を図りつつ、以上のようなアンケート結果・分析結果をも踏まえ、来年以降も多数の方に楽しんで戴けるような企画・運営の検討が必要であると思います。今後とも会員各位のより一層のご理解とご協力をお願いする次第です。

足こぎボートレース

みずべ Mizube Vol.9

特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会 会報 2004年（平成16年）2月10日発行

ラジオに出演しました

ー江東区に開局したレインボータウンＦＭ「大江戸放送局」体験ー

昨年、江東区に開局したレインボータウンＦＭ79.2MHZに、先日の1月18日（日）番組名：「大江戸放送局」14:00～15:00のDJをしている甚野氏の紹介で出ました。内容は、江東区の魅力を伝える地域密着型の放送です。江東区の水辺に親しむ会のこれまでの活動や江東の川の魅力を話しました。また、現在行っている、森下文化センターでの宮村河川塾や9月に行う水彩フエステイバルのことも紹介しました。

左から　小島涼子さん、藤井、甚野さん

1時間の番組ですが、台本はなく、デイレクターの方は1人で、曲と曲の間に打合せをしながら進行していく感じです。デイレクターが席を外した時は、DJの小島さんが機械を操作しながらDJをするなどとても臨機応変で、手作りで番組を作っている印象を受け、親しみを感じました。

水彩フエステイバルの時には、現地での中継もしたいとのことで、今から楽しみです。（藤井達生）

「江東区の水辺と緑を活かしたまちづくりを考える懇談会」（仮称）ご案内

●NPO法人「江東区の水辺に親しむ会」では、内閣官房都市再生本部より依頼を受け、「防災対策を考慮した水と緑のネットワーク再生事業」と称する調査業務を行なっております。本調査は年度内に終える予定ですが、これを機に、江東区の水辺と緑を活かしたまちづくりについて、今後も継続的に検討したいと考えております。

江東区の水辺と緑を最大限に活用するには、江東区内でご活躍される皆様方のご経験、お知恵を必要だと考え、かつ参加される皆様方の相互の交流を深める機会を設けることが必要だと考えております。このような意図から、「江東区の水辺と緑を活かしたまちづくりを考える懇談会」を実施する次第となりました。

会員の皆様方にもご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

●懇談会 実施日時

	●日時	●場所
第1回	平成16年2月10日（火） 18時30分～20時	東京海洋大学越中島校舎　大学院棟4階セミナー室 ※東京商船大学と東京水産大学が統合後改称いたしました。
第2回	平成16年3月10日（水） 18時30分～20時	東京海洋大学越中島校舎　大学院棟4階セミナー室

※以降、定期的に開催してまいります。

●討議の内容（予定）

・懇談会開催の挨拶　・参加団体、参加者の紹介　・現在進行中の「防災対策を考慮した水と緑のネットワーク再生事業」の進捗状況　・今後のすすめ方

●参加団体、参加者（予定）

・東京海洋大学（庄司邦昭教授、高橋洋二教授、苦瀬博仁教授）　・芝浦工業大学（守田優教授）・江東区政策経営部　・東京都建設局江東治水事務所　・国土交通省関東地方整備局荒川下流工事事務所　・江東区立臨海小学校　・深川仲町通り商店街振興組合　・地元在住の専門家（宮村忠教授　関東学院大　河川工学）　・地元在住の方　・NPO法人江東区の水辺に親しむ会（須永、奈良、他会員の皆様）

●事務局連絡先

NPO法人江東区の水辺に親しむ会（担当：須永、奈良）
電話：03-3201-3901（㈱TALO都市企画 内）　FAX：03-3201-3890
E-Mail：sunaga@bp.iij4u.or.jp

NEWS

「えこ・あくしょん江東」が設立されました。

平成16年１月29日（木）午後7時、江東区文化センター会議室において「えこ・あくしょん江東」が産声をあげました。「えこ・あくしょん江東」はこれまでリサイクルの普及啓発活動を行ってきたエコリサイクルハウスの運営方針が環境も視野に入れたものに変わるにあたり、江東区環境対策課の要請に従って新たに組織されたものです。「江東区の水辺に親しむ会」も呼びかけを受け、昨年暮れから打ち合わせに参加してきました。そして環境に関する教育、情報の受発信、交流などを活動目的とする「えこ・あくしょん江東」が立ち上げられました。新年度からエコリサイクルハウスが拠点となり、企画と運営を理事会が中心となって行います。ネイチャーリーダー協議会、ふとんリサイクル推進協議会、Green・Up、エコビーンズ、そして「江東区の水辺に親しむ会」の藤井副理事長も参加して理事会が組織されました。今後どうなるか不明な点もありますが、水辺の会のイベントにも「えこ・あくしょん江東」を構成する他団体の方の協力が得られそうです。

河川塾にちなんで・・・

長崎めがね橋，あれから２０年『石工さんたちの誇りを残す』

長崎は、わりと大きな自然災害が多いところです。平成3年(1991年)島原での雲仙普賢岳の噴火災害はまだ多くの人の記憶に残されていますが、そこから遡ること約10年，昭和57年の7月23日に299名の犠牲者をだした長崎大水害の記憶はすでに薄れてきています。もう、あれから21年の月日が経っています。

さて、21年前の話。

「エッ、橋をよけて川を通すんですか？」。その時壊れた長崎眼鏡橋を復元し、河川を改修するにあたって現地に保存できるか、それとも移転か、こんな形で残すのが是か非か、委員会で提案されたのは両岸のバイパス水路案であった。橋をよけて川(水路)を通す、そんな馬鹿な道理があるか！　当時32歳の若輩技術者は、うまくバイパス水路へ分流してくれない洪水(模型実験)への苛立ちもあって、悶々とした日々を過ごしていた。　ある日、350年前(いまは，もう370年前)この橋を作った石工さん達の声が聞こえた。「ワタシラハ、人ニ渡ッテモラウ為ニ、コン橋ヲ創ッタ。文化財トシテ残ス為ニ働イタ訳ジャナカ」。渡れる間は現地に残す、人ニ渡ッテモラウための石工さん達の「ほこり」を残そう。面痒いが当時の心境であった。夕暮れ時に現地を訪れ、眼鏡橋の河畔にたたずんで話をしているカップルに出会ったりすると、昔の趣は残せなかったけれどこれで良かったのかなと思う。

中島川に架かる眼鏡橋

既に完成している右岸バイパスから時を経ること約20年、やっとやっと左岸の家屋移転が終わり、いま左岸のバイパス工事が行われています。当時の若造は、もう52歳の中年(高年？)になってしまいました。現在、東京単身赴任中、江東区の水辺に親しむ会の末席会員にさせてもらっています。福岡の自宅へ戻り、久々に眼鏡橋の架かる長崎中島川を訪ねてきました。

右岸バイパス水路の分流口

(中島義明)

河川塾、復習の旅へ～鹿児島・宮崎編～

北海道から始まった河川塾も既に8回行なわれました。受講を重ねていくうちに、旅をしたくなる気持ちを抑えきれず、車を走らせて現地へ赴いております。良く言えば「復習」なのですが、単に旅好きなのです。　宮村先生の話は、北海道、沖縄、青森、鹿児島ノと日本の南北を交互に行ったり来たり、それに合わせて私の「復習の旅」も日本の南北を行ったり来たりしております。限られた休暇の中で、塾での話題の全てを見に行くことは難しいですが、これまでに青森県、鹿児島県、宮崎県を復習したところです。

年末年始の長期休暇を利用して、遠路、鹿児島・宮崎を訪れました。川と道のある風景を写真に収めるために、日中は撮影にあけくれ、夜間は移動するという強硬スケジュール。

まずは川内川へは人吉盆地から進入(浸入？)、かつての主要街道の峠を越えると大口盆地に入り、川内(せんだい)川の水田が広がりました。ゆったりと流れる川内川の周囲は水田地帯で、崖が迫る台地では畑が広がっています。川内市で川内川と別れて温泉に入った後は、海に落ちる夕日を見ながら枕崎までドライブ。夜の鹿児島に立つ西郷隆盛像を尻目に、肝属川のある大隅半島へと急ぎます。

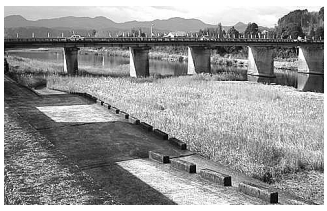
翌朝は鹿児島湾に面した佐多町から出発、肝属(きもつき)川を目指します。大隅半島の先端部には肝属山地が南北にあり、太平洋側に崖が落ち込んでいる急峻な地形です。12月にしては暖かく、窓を全開にして走ります。志布志湾に突如現れる石油タンクが見えたら、そろそろ肝属川の河口です。河口を渡ると、防砂林に囲まれた広大な畑が広がり、肥料を積んだトレーラーがたくさん走ります。

お次は大淀川を目指し、都城市へと向かいます。武家屋敷が今でも残る日南市は目的地ではないので、あっという間に通過すると、大淀川の上流部に出ます。源流部はわりになだらかな地形で、狭いながらも水田があります。それから都城盆地へ一気に下ると夜を迎え、暗い宮崎市街を通過、再び人吉盆地に戻ります。

翌日は九州山地に沿って北上するルートをたどり、大淀川支流の綾北川と五ヶ瀬川を目指します。中央構造線上の非常に険しく崩落の激しい国道で、通行止め箇所にさえぎられながらも、残雪のある悪路を延々と走ります。綾北川のダム周辺だけは道路が整備されているのが印象的です。　その後も落石、路肩崩壊の悪路と格闘すること2時間、「陸の孤島」と称される椎葉村に到達、やっとのことで五ヶ瀬川の上流に出会えます。昨日あんなに暖かかった宮崎南部に比べ、たいへん寒い高山です。五ヶ瀬川が刻む渓谷が深くなり、とうとう道路からは見えなくなってしまいます。五ヶ瀬川名物、高千穂峡へは日程の都合で断念、小丸川を目指しましたが、五ヶ瀬温泉でゆっくりしたのがたたって、小丸川に到達する前に日没。渋る心を抑えながら、帰路に着きました。年越しは九州で迎えました。

雪が解けて春を迎えたら、東北の復習をするつもりでおります。

(奈良朋彦)


両岸の町を結ぶ、川内川に架かる橋(宮之城町)

川が刻んだ、五ヶ瀬渓谷(熊本県蘇陽町)

発行日／平成16年2月10日
発　行／特定非営利活動法人　**江東区の水辺に親しむ会**
〒135-0023　東京都江東区平野 2-8-10-608
連絡先／Tel . 03-3201-3901　Fax. 03-3201-3890